

平成26年6月2日

関係機関所属長 殿

熊本大学大学院生命科学研究部長
竹屋元裕(公印省略)熊本大学大学院生命科学研究部 総合医薬科学部門 生体機能病態学講座
生体微細構築学分野担当教授候補者の公募について(依頼)

標記のことについて、本学大学院生命科学研究部では総合医薬科学部門 生体機能病態学講座の生体微細構築学分野担当教授候補者の公募を行うことになりました。

つきましては、ご多用中誠に恐縮に存じますが、貴機関において教授候補の適任者がおられましたら、下記によりご推薦賜りますようお願い申し上げます。

なお、本分野担当教授には、大学院生命科学研究部においては、生体微細構築学領域の先端的研究を展開していただき、医学部・大学院医学教育部においては組織学及び関連科目(教養科目を含む)の教育を担当していただきます。

記

1. 募集職名及び人員 教授1名
2. 所 属 熊本大学大学院生命科学研究部 総合医薬科学部門
生体機能病態学講座 生体微細構築学分野
3. 応募条件
 - (1) 博士の学位を有する者
 - (2) 生体微細構築学領域(組織学、発生生物学、細胞生物学、病理組織学等を含む)における卓越した業績と指導力を有し、先進的な研究を展開できる者
 - (3) 医学部並びに大学院医学教育部の兼任教授として、学部教育(組織学)並びに大学院教育において優れた教育能力を有する者
 - (4) 大学院生命科学研究部教授にふさわしい人格を有する者
4. 公募期限 平成26年8月4日(月) 必着
5. 着任予定時期 平成27年4月1日(水)
6. 提出書類

(1) 推薦書	1部	}	併せてテキストファイル(または、Word)を電子媒体でも提出願います
(2) 履歴書(様式有)	1部		
メールアドレス及び連絡先をご記入下さい。			
また、男女を問わず、出産、育児、介護に専念(あるいは従事)した期間について考慮することを希望される場合は、付記してください。			
(3) 業績目録(様式有)	1部		
(4) 主要研究論文目録(総説を含む)(様式有)	1部		
最近5カ年の原著論文を中心に、主要論文20編の別刷各2部を添付のこと(コピーでも可)			
(5) 業績の概要(様式有)	1部		
(6) 研究・教育に対する抱負(様式有)	1部		

※(2)～(6)の様式は、本研究部ホームページ(<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp>)の【教員募集のご案内】の『応募様式』を御使用ください。
7. 附記 *選考に当たって、候補者各位にはセミナー及び面談をお願いすることがありますので、あらかじめ御承知おき願います。
*応募書類に記載された個人情報、当該選考のみ使用し、他の目的には一切使用しません。
*熊本大学は男女共同参画を推進しています。(詳細はホームページをご覧ください。
<http://gender.kumamoto-u.ac.jp/>) また、選考にあたっては、男女共同参画社会基本法の精神に則り、適正に行います。
8. 書類提出先 熊本大学生命科学系事務ユニット 総務・人事担当: 宮津 照代
〒860-8556 熊本市中央区本庄1丁目1番1号 TEL 096-373-5912
E-mail: ski-somu@jimv.kumamoto-u.ac.jp

履 歴 書

氏名 (ふりがな) 熊本 太郎 (くまもと たろう)

生年月日 1970 年 1 月 11 日

自宅住所 〒8XX-0XXX ○○県○○市○○町 1-23-4-567
TEL/FAX : 0XX-123-4567

勤務先・現職 ○○大学大学院○○研究科・准教授
○○大学大学院○○研究科 ○○学部門 ○○学分野
〒8XX-0XXX ○○県○○市○○町 8-9
TEL : 0XX-321-4567 FAX : 0XX-321-1234
E-mail taro@xyz.abc.ne.jp

学 歴 1988 年 3 月 31 日 ○○高等学校 卒業
1988 年 4 月 1 日 ○○大学医学部 入学
1994 年 3 月 25 日 同 卒業
1996 年 4 月 1 日 ○○大学大学院○○研究科 入学
(○○学専攻)
2000 年 3 月 24 日 同 修了 (医学博士)

職 歴 1994 年 4 月 1 日 ○○病院・研修医
2000 年 4 月 1 日 米国 NIH リサーチアソシエイト (Dr. ○○研究室)
2005 年 7 月 16 日 ○○大学○○研究所・准教授
2010 年 4 月 1 日 ○○大学大学院○○研究科・准教授
現在に至る

学 位 医学博士 (2000 年 3 月 ○○大学)

免許および資格 注 : 臨床系の場合は認定医・専門医・指導医の有無について明記すること。
1994 年 5 月 10 日 医師免許 (登録第 11111 号)
2000 年 10 月 1 日 日本○○学会認定 専門医 111 号

学会活動等 日本○○学会 (8 年間、平成 14 年より評議員)、
日本△△学会 (6 年間、平成 16 年より理事)
日本□□学会 (4 年間)

賞 罰 2009 年 12 月 3 日 第 10 回日本 xx 学会賞受賞

業績目録

注：著者名は全員を記し、応募者にはアンダーライン、論文の corresponding author には*を付すこと。また投稿中論文は記載しないこと。印刷中の論文については正式な採択通知書のコピーを同封できる場合に限って記載が認められる。業績目録作成にあたって以下の業績等のサンプル記入例を参考にすること。記載順は、直近の年代の論文から過去に遡って記載すること。英文原著論文・総説・症例報告については掲載誌の最新の impact factor (IF) 及び当該論文の引用回数 (citation; Scopus による最新データ) を記すこと。

I. 英文原著論文

1. Oe Y., Honjo E., Kuhonji T., Kumamoto T., Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. Shirakawa K. & Kurokami T.*
The cell-matrix interaction via CD44 PKC activation.
J. Cell Biol., in press. [IF, 9.575; citation, 0]
2. Honjo J.* & Kumamoto T.
Progression of tumor cells the H-Ras oncogenic signaling.
Proc. Natl. Acad. Sci. USA 108, 9-10 (2012) [IF, 9.432; citation, 10]
3. Kumamoto T.,* Honjo J., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.
Signal transduction of in the cell differentiation.
Nature 443, 456-789 (2007) [IF, 34.480; citation, 300]

II. 英文原著論文の数、IF の総和および引用回数のまとめ

注：記入例に従い、総論文数、1st author、2nd author、last author、corresponding author および、それ以外の共著者の論文数を記載すること。印刷中の論文については、I に記載したものに限り記載が認められる。1st author でかつ corresponding author である場合や last author で corresponding author である場合などは、corresponding author として扱い、重複して記載をしてはならない。IF の合計点、*selected IF の合計点および引用回数についても記載すること。また最近5年間の掲載論文についても () 内に記載すること。

*Selected IF:申請者が 1st author, 2nd author, last author もしくは corresponding author である論文の IF。

記入例

原著論文総数
100 (35)

1st author 論文数	2nd author 論文数	Last author 論文数	Corresponding author 論文数	それ以外の 論文数
20 (7)	20 (10)	20 (5)	10 (5)	30 (8)

IF の合計点	Selected IF の 合計点	引用回数の 総合計
350 (200)	212 (167)	852

III. 英文総説

1. Honjo J., Kumamoto T.* & Kurokami T.
Regulation of cellular proteins via ubiquitin-proteasome.
N. Engl. J. Med., 345, 9-10 (2011) [IF, 47.050; citation, 500]

2. Kumamoto T.*
 Stress response and transcriptional regulation in neuronal cells.
 Nat. Rev. Mol. Cell Biol., 1, 23-45 (2010) [IF, 42.198; citation, 600]

IV. 英文総説論文の数、IF の総和および引用回数のおよびまとめ

注：記入例に従い、総論文数、1st author、2nd author、last author、corresponding author の論文数を記載すること。印刷中の論文については、Ⅲに記載したものに限って記載が認められる。1st author かつ corresponding author である場合や last author で corresponding author である場合などは、corresponding author として扱い、重複して記載をしてはならない。申請者が 1st author、2nd author、last author、corresponding author である英文総説の IF の合計点および引用回数についても記載すること。また最近5年間の掲載論文についても () 内に記載すること。

記入例

総説論文総数
13 (8)

1st author 論文数	2nd author 論文数	Last author 論文数	Corresponding author 論文数	それ以外の 論文数
7 (4)	3 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)

IF の合計点	引用回数の 総合計
70 (55)	100

V. 英文症例報告

1. Kumamoto T.*, Honjo J., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.
 A case of type A insulin resistance with insulin receptor gene mutation.
 N. Engl. J. Med., 340, 20-22 (2006) [IF, 47.050; citation, 50]

VI. 邦文原著論文

1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の発現効率の制御に関する研究.
 生化学 85, 124-132, 2013

VII. 邦文症例報告

1. 熊本太郎, 本荘次郎
 糖尿病ケトアシドーシス発症時の症例.
 糖尿病 56, 80-85, 2013

VIII. 邦文総説

(注：全国規模の学会誌などに、申請者の研究成果を中心に当該分野の現況などについてレビューした、特に重要なもの等に限定して記載のこと。)

1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の研究についての展望.
 生化学 84, 985-993, 2012

IX. 著書

1. Oe Y., Kuhonji T, Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. & Kurokami T.
Alzheimer's disease and stress gene expression.
In Alzheimer's Disease, Annals of Neuroscience, Vol. 123
(eds., Honjo J., Oshiro G. & Shirakawa K.), Kumamoto Academy of Medical Sciences,
Kumamoto, p. 456-789 (2010)
2. 熊本太郎
組み換えタンパク質
新医科学実験講座 23 (医科学会 本荘次郎 編), 化学同人 (熊本) p. 456-789 (2009)

X. 招待講演 (国際学会)

1. Kumamoto T.
Regulation of human cells via autophagy.
The 10th International Conference on Human(2011)

X I. 特別講演・宿題報告・教育講演・指名講演など (国内学会)

(注：国際学会や全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。)

1. 熊本太郎, 本荘次郎
フォスファターゼと活性化機構
第 123 回 医学生物学シンポジウム(2006)

X II. シンポジウム発表など (国内学会)

(注：国際学会や全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。)

1. 熊本太郎, 本荘次郎
フォスファターゼと活性化機構
第 123 回 医学生物学シンポジウム(2006)

X III. 競争的研究資金の獲得状況

(注：過去に獲得した競争的研究資金について、研究代表者・分担者分をそれぞれ文部科学省科学研究費補助金、その他の省庁研究補助金、財団等補助金別に配分資金(直接経費)を記載のこと。なお、研究分担者分については分担者への実際の配分額を記すこと。また、間接経費の交付がある場合には、その配分額を明記すること。)

研究代表者分

文部科学省科学研究費

1. 平成 23～20 年度 基盤研究(B) 15,000 千円 (間接経費 4,500 千円)
タンパク質リン酸化と活性化機構
2. 平成 23～21 年度 基盤研究(A) 30,000 千円 (間接経費 9,000 千円)
神経変性疾患と遺伝子治療に関する研究

その他の省庁研究補助金

1. 平成 23～20 年度 厚生労働省科学研究費
がん克服戦略研究事業 50,000 千円
細胞のイメージングと分子標的治療

財団等補助金

1. 平成 20 年度 特定研究助成金 2,000 千円
細胞ストレスと薬剤耐性化に関する研究

研究分担者分

文部科学省科学研究費

1. 平成 23～20 年度 基盤研究(B) 1,000 千円 (間接経費 300 千円)
幹細胞の分子機構に関する研究 (研究代表者 黒髪太郎)
2. 平成 23～21 年度 基盤研究(B) 0 千円
低酸素応答に関する研究 (研究代表者 大江良子)

その他の省庁研究補助金

1. 平成 23～19 年度 厚生労働省科学研究費
がん克服戦略研究事業 5,000 千円
多剤耐性がん細胞に関する研究 (研究代表者 黒髪太郎)

財団等補助金

1. 平成 23 年度 日本糖尿病財団研究助成金 500 千円
細胞ストレスに関する研究 (研究代表者 黒髪太郎)

XIV. 競争的研究資金の獲得状況のまとめ

注：記入例に従い、総獲得額、研究代表者としての直接経費獲得額、研究分担者としての直接経費獲得額、最近 5 年間の直接経費獲得額、最近 5 年間の研究代表者としての直接経費獲得額、最近 5 年間の研究分担者としての直接経費獲得額を記載すること。間接経費の交付がある場合には、()内にその配分額を記載すること。

記入例

直接経費の総額 (間接経費)	研究代表者としての直接経費獲得額 (間接経費)	研究分担者としての直接経費獲得額 (間接経費)
200,000 千円 (40,500 千円)	150,000 千円 (40,000 千円)	50,000 千円 (500 千円)

最近 5 年間の直接経費の合計 (間接経費)	最近 5 年間の研究代表者としての直接経費獲得額 (間接経費)	最近 5 年間の研究分担者としての直接経費獲得額 (間接経費)
100,000 千円 (25,300 千円)	80,000 千円 (25,000 千円)	20,000 千円 (300 千円)

主要研究論文

(原則として原著論文が望ましいが、総説を含めることもできる。総説を記載した場合は、明記すること。合計20編以内に限定して記載すること。)

○最近5カ年の業績

1. Oe Y., Honjo E., Kuhonji T, Kumamoto T., Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. Shirakawa K. & Kurokami T.*
The cell-matrix interaction via CD44 is PKC activation.
J. Cell Biol., in press. [IF, 9.575; citation, 0]
2. Honjo J.* & Kumamoto T.
Progression of tumor cells in H-Ras oncogenic signaling.
Proc. Natl. Acad. Sci. USA 108, 9-10 (2011) [IF, 9.432; citation, 10]
3. Kumamoto T.,* Honjo E., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.
Signal transduction of in the cell differentiation.
Nature 467, 456-789 (2010) [IF, 34.480; citation, 300]

○それ以前の主要な業績

1. Honjo J., Kumamoto T.* & Kurokami T.
Regulation of cellular proteins via ubiquitin-proteasome.
N. Engl. J. Med., 345, 9-10 (2001) [IF, 47.050; citation, 50]
2. Kumamoto T.*
Stress response and transcriptional regulation in neuronal cells.
Nat. Rev. Mol. Cell Biol., 1, 23-45 (2000) [IF, 42.198; citation, 60] 英文総説

注：著者名は全員を記し、応募者にはアンダーラインを引き、論文の corresponding author には*を付すこと。投稿中論文は記載しないこと。印刷中の論文については、正式な採択通知書のコピーを同封できる場合に限って記載が認められる。記載順は、直近の年代の論文から過去に遡って記載すること。また、掲載誌の最新の impact factor (IF)、及び当該論文の引用回数 (citation; Scopus による最新データ) を記すこと。

業績の概要

熊本 太郎

現在までの業績をA 4に1枚、1200字以内で記載すること。

研究・教育に対する抱負

熊本 太郎

当該分野応募に関して、現在お持ちの抱負をA4に1枚、1200字以内で記載すること。